



全大教青年交流集会に参加してきました(1)



7月22-23日に杜の都仙台において全大教青年交流集会が開催されました。熊本大学教職員組合から2名の参加で、全国の同じ世代の子達と職場のこと将来のことなどを熱く語りあってきました。まあ、まだ機関紙ネタもあんまりないんで、このネタでしばらく引っ張ってみたいと思います。



青年交流集会っていったい何をするんだろう??

さて、今回の青年交流集会の内容は

一日目: 形式的な集会挨拶等の後、班別行動(仙台市内散策)、恒例の大懇親会

二日目: 各分科会(基本的に職種別になる)に別れ、テーマを決め熱い討論

形式的な閉会集会(各分科会の報告など)

このスケジュール見て、「おい!!討論する場が分科会一回だけじゃないか」なんて思われる方が多くいるとは思いますが、「こんな集会でいいのか」なんていう言葉が、僕自身、昨日の事のように思い出されますが、青年交流集会はその名の通り「交流」がメインの集会なのです。

皆さん思い浮かべてください。青年が組合活動に積極的に参加している姿を。自分の職場の中で見ますか??。なかなかそんな光景を拝むことは出来ません。そんなん居たらかなりの天然記念人物です。やっぱ青年層って組合へ入ったばかりで、職場の現状もよく理解してなければ、他大学に知り合いもない。そんな子達が全国から集まって、いきなり「マジトーク」できます??これが出来る子もかなり天然記念人物ですな。そんなわけで、一日目は知らない子同士を班分けし、班員全体で散策計画をする。そして散策しているうちに自然と話が出来ようになり、次の日に活発な意見交換(分科会)が行われるという狙いなわけです。短い日程のなかで有効な意見交換をするには、まず、話を出来る仲間を作ることが大切なんでしょうね。

今号は「青年交流集会とは??」で一杯一杯なので、本編は次号以降ということで...

編集者のぼやき

前号で「もう梅雨明けしそうだね」なんて言っていたら、天が機嫌を損ねたのか本格的な梅雨。それも「大梅雨」。あんなこと書かなければよかったとちょっぴり反省。

天候の読みが非常に甘かった

今号から仙台で開催された全国青年集会のことを報告していくのだが、悲しいことに写真撮影が得意というようなところが多々あり、盗撮なんてことも考えたが、機関紙でもあるため、危険を冒すようなことはなしにしました。そんなことなんで、多少、文字が多くなるかもしれな

いけど、その代わり読みやすく楽しい機関紙にしますんで勘弁してくださいな。

そうそう、昨年に続き、今年も鰻を食いそびれました。今年は8月4日も該当するようなので、その日に鰻を満喫してみるかって「おい!!」その日は組合のビアパーティーじゃないか??

ということで、組合のビアパーティー皆さんも参加してくださいね。詳しいことは事務所にお尋ねください。

熊本大学教職員組合青年部機関紙
やまくら～ズ 発行 No.2 2006/07/27